

小特集 2 ■ IVRC2005 報告



■ 国際化 2 年目を迎えて

白井暁彦 (国際化担当委員)

ENSAM Presence & Innovation

IVRC が国際大会となるきっかけでもあったフランス Laval Virtual との提携も今年で 2 年目を迎えます。学会誌への報告として、Laval Virtual からの来賓である Simon RICHIR (Laval Virtual 科学ディレクター、ENSAM Presence & Innovation 教授) の授賞式挨拶を引用させていただきますと思います。

IVRC にお招きいただき有難うございます。岐阜県、各務原市、そして IVRC 実行委員に感謝の意を表明いたします。私は IVRC のすべてのスタッフとのその組織のクオリティ、そしてその受入の親切さに厚く感謝いたします。

また、参加されている学生作品の高い実現クオリティ、高い技術に敬意を表します。

Jean-François FONTAINE (Laval Virtual ディレクター) は、2007 年にオープンするテーマパーク「アドベンチャー・バーチャル (Parc de l'Aventure Virtuelle)」の準備が非常に忙しかったため、今回出席できないことを残念に思っています。Jean は IVRC とのよい関係を保つことに非常に愛着を持っており、それを継続するために私にこの賞を授与することを託しました。選出は非常に困難でした、本当のところはすべてのプロジェクトをお招きしたいところなのですが、今回二つのプロジェクトに対してラバールバーチャル賞を授与したいと思います。

【Laval Virtual Award 2005】

「INVISIBLE ~影を追う者~」

Team Shadow (奈良先端科学技術大学院大学)

「Splash Fishing」

攻盾 (東京工業大学)

今回の授賞までに既に 6 作品、23 名以上の日仏学生が

海を越えて VR 作品を通じた交流をしてきたことになりましたが、受賞者となった 2 作品 10 名以上の日本学生は 2006 年 4 月 26 ~ 30 日に西フランス Laval にて開催されるフランス最大の VR コンベンション Laval Virtual (<http://www.laval-virtual.org/>) に参加することになります。週末だけで 1 万人を超える一般市民向け公開において、さらなる実用化研究、言語を超えた研究文化交流となれば幸いです。

コンテストを通じた VR を通じた新たな国際研究交流の形は、確実に実を結び始めています。かく言う私も IVRC でのボランティアがきっかけでフランスでの研究生活を始めることになった訳であり、この活動を支える国際研究交流プロジェクト、関係各位をより支えていくことが出来れば幸甚であると考えています。

■ コンテスト概要

今年も IVRC は 5 月の企画書の募集から始まり、書類審査、プレゼンテーション審査、夏の予選大会、秋の本選大会と四つの審査、二つの大会を行った。

書類審査

Web 担当委員: 長谷川晶一 (東京工業大学)

杉本麻樹 (電気通信大学)

年々参加校数・企画数とも増えている IVRC だが、今年は 5 月 18 日の締め切りの時点で 17 の大学から 46 もの企画が集まった。これまで全審査員が全企画を採点していたが、企画数がここまで増えるとこの方式では審査品質を保つことが難しい。そこで、3 名程度の審査員での採点后、審査会議で通過チームを決定するという方式とした。書類審査では 20 企画を選出する予定だったが、24 の企画がプレゼンテーション審査に進むことになった。

プレゼンテーション審査

プレゼン審査担当委員: 嵯峨 智 (東京大学)